

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271401087		
法人名	社会福祉法人 恵光会		
事業所名	グループホーム 南串山荘		
所在地	〒854-0703 長崎県雲仙市南串山町丙10719 (電話) 0957-88-2922		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年2月16日

## 【情報提供票より】(H20年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 12 月 1 日		
ユニット数	1	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	4.7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨一部鉄筋平屋建 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	750 円	

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	81 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	京泊馬場医院・馬場歯科医院・哲翁病院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

農漁業の盛んな町、雲仙市南串山町にある唯一のグループホームである当ホームは、平成12年に理事長が住み慣れた場所であるこの地に高齢者が入居できるホームを作りたいという希望から開設され今年で8年目を迎える。敷地内には関連法人の介護サービス事業所や安心ハウスなどが立ち並び、デイサービスでの入浴やデイサービス利用者と共に体操への参加ができるなどお互いの協力体制が整っている。高台に位置しているため、ホームの窓からは段々畑、町並み、橋湾に沈む美しい夕日などを眺めることができ、ホームにいながら季節を感じ、最高のロケーションを楽しむことができる。今年度からは、入居者との触れ合いを大切にしたいという思いから、タクティールケアを取り入れ、痛みの軽減や不穏状態の緩和など徐々に効果もみられ、今後のさらなる取り組みと質の向上に期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された項目については、早急に検討・実施され改善に向けての努力がみられた。運営推進会議の参加メンバーに関しては、地域住民として地区の自治会長と町内の方が参加され、意見交換や情報収集ができよい機会づくりとなった。同業者との交流に関しては、研修先で話す機会はあるが、ネットワーク作りには至っていない。今後も交流を積極的に行うことでお互いの質の向上に期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議の中での話し合いが行われ、一人ひとりが自己評価票に追加記入していく方法で行われた。難しいと感じる項目もあったが、取組んでみて、統一したケアの大切さを認識するなど職員の意識づけにも繋がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では入居者や家族(交替制)、町の総合支所職員の参加者に加え、自治会長と町内の地域住民が加わったことで、地域の情報を取り入れていくよい機会となった。会議内容は入居者の状態や日々の活動内容の報告だけに留まらず、参加者からの質問や意見も出され、双方向的な会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置し、年に1回家族会も開催しており、意見を出せるような仕組みはあるが、殆ど意見がないのが現状である。サービスの質の向上していくためには、やはり家族の意見や不満を聞き出し、何かあれば早急に改善していく姿勢が重要と考えられる。さまざまな方法で意見を表出できる環境作りには今後は期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	小中学生やボランティア、町内のサークル(コーラス、寸劇)の慰問や年に1回の敬老会での地域との交流はあるが、住宅街から離れている立地条件や、関連法人の施設が集まった敷地内にホームが位置していることなどから日常的な地域住民との交流は行われていない。まずは、気軽に訪問しやすい雰囲気作りや地元への声かけなどの積極的なアプローチからはじめるなど、今後の活動に期待したい。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年4月に職員全員での話し合いを行い、家庭的で温かいホームを作りたい、入居者一人ひとりのニーズに合わせて、心地よいと感じてもらえるような支援をめざし、独自に理念がつけられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今年度より新たな取り組みとして、職員一人ひとりに年間の抱負を述べてもらい玄関への掲示をはじめた。理念の実践に向けてそれぞれが、目標を持ち日々のケアに繋げようとする姿勢が窺えた。また毎月の職員会議の中で、意識づけも行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小中学生やボランティア、町内のサークル(コーラス、寸劇)の慰問や年に1回の敬老会での地域との交流はあるが、住宅街から離れている立地条件や、関連法人の施設が集まった敷地内にホームが位置していることなどから日常的な地域住民との交流は行われていない。		地域との積極的な交流は、入居者にとって良い刺激になるだけでなく、認知症への理解が深まったり、地域の見守りができて緊急時のセーフティネットの役割にもなることも考えられる。まずは、気軽に訪問しやすい雰囲気作りや地元への声かけなどの積極的なアプローチからはじめるなど、今後の活動に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議の中での話し合いが行われ、一人ひとりが自己評価票に追加記入していく方法で行われた。前回の評価結果を元に考案・作成した改善目標は早急な実施が行われ、達成に繋がっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では入居者や家族(交替制)、町の総合支所職員の参加者に加え、自治会長と町内の地域住民が加わったことで、地域の情報を取り入れていくよい機会となった。会議内容は入居者の状態や日々の活動内容の報告だけに留まらず、参加者からの質問や意見も出され、双方向的な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回、入居者と共に市の総合支所の窓口へグループホーム新聞を届け、顔馴染みの関係はできているが、市の担当者と共に課題解決に取り組むなどの連携や、細かな情報提供は行われていない。		困難な事例があった場合などは市の担当者に相談したり、ホームの実情や考え方を知ってもらうために密な情報提供を行うなどの積極的な関係作りの強化に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶり、行事、外出先での様子、新人職員の紹介などが書かれたホーム新聞はカラー写真が豊富で手書きで書かれており、温かみを感じられる。その他にも、面会時や請求書を手渡しした際に個々の家族への報告が行われている。遠方に住む家族に対しては、電話でのやりとりが行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置をしたり、年に1回家族会を開催して、意見を出せるような仕組みを作っているが、なかなか意見が表出できていないのが現状である。		サービスの質を向上していくためには、やはり家族の意見や不満を聞き出し、何かあれば改善していく姿勢が重要と考えられる。家族アンケート用紙を請求書と同時に渡し記入をお願いするなど、意見を表出できる環境作りを今後は期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での職員異動があるが、併設の事業所であるため入居者への関係が断たれることはなく、現在のところ入居者へのダメージはない。新しい職員に対してはホーム新聞で家族への紹介が行われると共に、1ヶ月弱の引継ぎ期間を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームのケアの質の向上に向けて、今年度より年間の抱負として個人目標を定めている。年度末に個人個人での評価を予定しており、ケアの振り返りに繋がること予想される。新人職員に対しては、関連法人の市外のホームへ研修へ行き現場を知ることスキルアップに繋げる努力をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、連絡協議会への加入はしておらず、外部研修先で同業者と話す機会はあるが、他のホームとの交流やネットワーク作りにまでは至っていない。		関連法人内での同業者との交流の機会はあるが、近隣のホーム同士の交流や意見交換などは行われていない。今後はホームの質を確保していくためにも、他のホームとの交流や相互研修などを行い、お互いが向上を図れるような取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>隣接事業所のデイサービス利用者からの入居が多く、本人のダメージは少ないが、入居が決まるとまず職員が家庭訪問を行っている。入居者の不安を最小限に抑えるため、居室を自宅での自室に近づけるなど環境整備に配慮する工夫が行われている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一方的な関係になるのではなく、入居者から料理の仕方、昔の習慣、掃除の仕方など教わることも多い。また入居者の笑顔や感謝の言葉は職員への励みにもなっている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>買い物をしている時、普段の会話の中など、入居者の思いが表出される場面には、相手の目をしっかり見つめ、表情や行動から気持ちを汲み取る姿勢がある。今までの生活歴に関しては入居時にアセスメントをとり把握に努めている。今後は定期的に生活環境などに変化がないか追記していくことも大切である。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者・家族の意向、健康面、医療との連携を重要視した介護計画は、職員会議の中で具体的にどういったケアができるか模索しながら作成されている。今後も担当者や職員だけでなく、家族、主治医、地域の友人などさまざまな意見を取り入れたプランの立案が大切である。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者に必要な細かなケアの把握ができるケアチェック表の記入と同時に半年に1回介護計画の見直しを行っている。入居して日が浅い入居者などに対しては、1週間後に見直しを行うなど、必要に応じた検討が行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・家族のさまざまなニーズを把握し、通院介助(市外も含む)やお墓参り、自宅への外出など柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が入居前のかかりつけ医であり、それに応じた通院介助や主治医との連携がとられている。受診状況や状態がひと目で分かるように、カーデックスを使用し、主治医の指示や内服薬の変更、副作用への注意などが書かれ、最近の健康状態の把握がしやすく職員全員の共有ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りの指針を家族等に説明し同意を得ているが現在までに看取りの経験はない。週に1回、看護師の訪問や必要時に法人内の看護師との協力体制はできている。		家族に対し意思の確認はとられているが、状態変化に応じた意向の変化を理解し、繰り返しの話し合いや意思の把握をしていく必要がある。また、現時点でホームがどこまでどのように対応でき、職員の能力や考えはどうであるかを振り返り、学んでいく機会を早急に作られることに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員同士の会話に注意する、大きすぎる声で話さない、相手の目を見て同じ視線で話す共感の姿勢が窺える。入居者の居室は大切なその人の空間と考え、入る前には声かけをし、必ずノックをして入るようにしている。また、掲示物やホーム新聞等に入居者の写真や名前・年齢が掲載されるため、個人情報保護の観点から家族にはきちんと同意をとられている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の表情・行動をしっかりと見守りながら気持ちを汲み取り、今何がしたいのか把握に努め職員本位ではなく、入居者本位の生活を大切にしている。一日のおおまかな流れはできているが、希望に応じて食事時間や起床時間をずらしたり、隣接のデイサービスへ体操に行かれるなど柔軟な支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体機能に合わせて、調理の準備や片付けを手伝う姿があり、それに対し手を出し過ぎることなく、見守る職員の姿がある。職員全員が入居者と一緒に同じものは食べていないが、同じテーブルを囲み、楽しそうな会話が聞こえる。時々、ご家族より野菜の差し入れもあり獲れたての旬の物を味わう機会もある。		職員が同じものを食べることで、食事が話題になり、話しがさらにはずみ入居者にとって五感の刺激になることもある。また、介助しながら職員も食べることでペースダウンしゆっくり時間をかけて食べることもでき本人のペースに合わせた支援に繋がることが期待できる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おき(時間帯は午後から夕方まで)にほぼ全員が入浴し、拒否者がいれば無理強いせず時間を置いてもう一度声をかけるか、翌日に入浴をすすめるようにしている。車椅子使用の方に対しては、隣接のデイサービスのリフト浴を使用している。湯加減は、湯温計にて好みの温度に調整し、希望に応じた支援がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活習慣の把握は入居時のアセスメントだけでなく、日頃の生活の中でも徐々に聞きだすようにしている。それぞれに、ベランダの外を眺めたり、テレビを見たり、歌をうたったりと楽しみごとがある。ペットに会いたいと言われる方には、職員が同行して自宅を訪ねたりするなど、本人の希望に沿った支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日や体調に合わせて、日常的に敷地内の庭に出たり、近くの公園へ出かけている。入居者全員での外出(行事)に関しても、天候や入居者の状況に応じた支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室の施錠はしていない。現在、外出傾向のある入居者はいないが、以前徘徊の見られる方に対して、外出したい気持ちを汲み取り、職員と一緒に付き添って外に出てみたり、自宅まで行った事もある。周辺の協力体制に関しては、法人内での見守りもあるが、運営推進会議の中で声をかけたり、交番への協力もお願いしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内では年に2回、ホーム内では2ヶ月に1回の防災訓練が行われている。今年度は火災や夜間想定訓練だけでなく、地震を想定した訓練が行われた。推進会議に参加したメンバーが消防団の方であり、近所との協力を要請したり、以前は合同訓練が行われたこともあるなど支援体制が整備されている。		訓練や地域との協力体制はできているが、災害に備えた物品(食料・水・携帯コンロなど)の把握や準備までには至っていない。また非常時の持ち出し品(ケース記録・ケアプラン・薬など)をリストアップし、もしもの時に備えてのライフラインの確保の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に関しては、法人内の管理栄養士にアドバイスをいただき、入居者の好みを取り入れて作っている。食べた後は、作ったメニューを1ヶ月分まとめ、再チェックを依頼している。また嚥下困難がある入居者に対し、食前にアイスマッサージを実施したり嚥下体操を行うなど、状態に応じた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や和室などの共有空間は広々としゆったりくつろげ、落ち着ける雰囲気である。和室にはコタツがあり心地よく感じられる。廊下の大きな窓からは町の様子と周辺の段々畑を見ることができ、季節を感じることにできる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅を訪問し、居室をなるべく今まで過ごしていた部屋に近づけるようにしたり、家族には馴染みの物を持ってきていただくようお願いしている。電動リクライニングベッド、エアコン、タンス、洗面台が各室にあり、その他は持ち込みのものである。		